

生ごみ分別に関する制度設計における令和3年度実績と令和8年度予算の増額要因

1 予算計上している燃やすごみ量

- 燃やすごみ量推計値（制度設計）が 3,440 トンに対し予算計上額 3,848 トンと 408 トン多い。
- 予算計上している燃やすごみ数量の根拠は、令和7年4月～9月の燃やすごみ実績の月平均 279 トン×12 ヶ月に 10%を乗じている。実績見込みは 279 トン×12 月 (3,348 トン) + 生ごみ残渣 148 トンの 3,496 トン
- $31,110 \text{ 円} \times 408 \text{ トン} = 12,692,880 \text{ 円}$

【削減として見込める可能性金額】

- 実績見込みは 3,496 トンであることから 3,848 トンとの差は 352 トン多い
- $31,110 \text{ 円} \times 352 \text{ トン} = 10,950,720 \text{ 円}$

2 逗子市の燃やすごみ処理費

- 逗子市の燃やすごみの推計単価が 29,610 円に対し予算計上単価 31,110 円と 1,500 円高い。
- 焼却炉の維持管理費等の増加、社会的な燃料光熱水費の高騰及び修繕等による。
- $1,500 \text{ 円} \times 3,848 \text{ トン} = 5,772,000 \text{ 円}$

【削減として見込める可能性金額】

- 実績見込みは 3,496 トンであることから 3,848 トンとの差は 352 トン多い
- $1,500 \text{ 円} \times 352 \text{ トン} = 528,000 \text{ 円}$

3 逗子市への燃やすごみ運搬費

- 逗子市への燃やすごみ運搬費の令和3年度予算単価が 3,960 円に対し予算計上単価 6,853 円と 2,893 円高い。
- 社会的な燃料費の高騰及び運送業界の働き方改革による運賃増による。
- 生ごみ分別開始に伴い、燃やすごみ比重減による単価上昇
- $2,893 \text{ 円} \times 3,848 \text{ トン} = 11,132,264 \text{ 円}$

【削減として見込める可能性金額】

- 実績見込みは 3,496 トンであることから 3,848 トンとの差は 352 トン多い
- $2,893 \text{ 円} \times 352 \text{ トン} = 1,018,336 \text{ 円}$

以上の要因から

参考資料 1－1 で示した令和 3 年度実績と令和 8 年度予算との財政比較での約 1,670 万円の削減効果に加え、今後、1. 予算計上している燃やすごみ量、2. 逗子市の燃やすごみ処理費、3. 逗子市への燃やすごみ運搬費から約 1,240 万円の計約 2,910 万円の削減となる可能性がある。